

会議録(要旨)

- 1 会議名 令和6年度第2回北九州市障害者施策推進協議会
- 2 会議種別 付属機関
- 3 議 題
 - (1) 「北九州市障害福祉計画」及び「北九州市障害児福祉計画」の次年度における取組について
 - (2) 令和7年度北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査について
- 4 開催日時 令和7年2月12日(水) 18時30分 ~ 19時30分
- 5 開催場所 市役所本庁舎 3階 大集会室
(北九州市小倉北区城内1番1号)
- 6 出席者氏名
 - 【委員】(50音順)
池田委員、伊野委員、今村委員、榎委員、上地委員、木村委員、小橋委員、柴田委員、高嵯委員、田中委員、鳥越委員、中村委員(会長)、松中委員、峯委員、民田委員、森委員、森川委員
(計17名)
 - 【事務局】
障害福祉部長、障害福祉企画課長、障害者支援課長、指定指導担当課長、精神保健・地域移行推進課長 等
- 7 会議経過(発言内容)

議題1

「北九州市障害福祉計画」及び「北九州市障害児福祉計画」の次年度における取組について

■資料 1-4～1-5 (1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行

- 利用者の重症化と高齢化が、医療現場ではある。
各事業所が、かなり高い目標になっていることが予想される。そのような観点をもって対応していかないと、その時々に対応だけでは、その後の対応では苦慮することがあるため、配慮をよろしく願います。
また、国が来年度、障害のある人に対する支援（人材確保）に対して、予算をつけていくとニュースで聞いている。その点、どのように考えているか。

(事務局)

最初のご意見に対して、国の施策の中で重度の方であっても、地域で新しい生活をということで、地域移行も含めて実施している。

確かに重度の方は、グループホームや通所サービス等、地域で生活には様々なサービスが必要になっており、事業所数も利用者数も増えている。今後サービスの質の問題と思うので、事業者様の方に様々な情報提供しながら、きちんとサービス提供できるような体制に、市の方でもしっかりと取り組んで参りたいと考えている。

福祉人材はどこも不足をしているという状況がある。

障害分野についても厳しい状況であり、国の補助事業を活用した人材確保も行っているが、どちらかと言うと、今の人材（職員の方々）の負担を軽減し、障害福祉の人材として留まっていたくような事業を実施している。

例えば、ロボットの補助事業やICT（見守りや職員間の連絡に利用するIT関係）助成事業。そのような形で職員の負担を軽減し、長く福祉事業に携わっていただき、サービスを提供していただくような助成事業を行っているところである。

- 質問（意見）にあった「意欲的にもっと時間を増やしたいところだが、会社としては、社会保険に加入できないところに留められる事例もある。」についての、回答をいただいていない。社会保険に加入できないことは、厳しいことであると思うが、そこに対してどのようにやっていくのか方針を伺いたい。
また、「コロナ禍が明けたため」という表現は、適切な表現に変えてほしい。

(事務局)

社会保険の制度に関しては、内部でもう一度協議したいと思う。

コロナ禍の表現についても、検討したいと思う。

■資料 1-30 (8) 発達障害のある人等に対する支援の充実・強化

- 強度行動障害への支援体制について、細かく書かれている。いつまでにどの段階で提示できるのか。スキームか何か考えているか。

(事務局)

まず、これから来年度に向けて支援者側の支援ということで、研修に力を入れて、やっていきたいと考えている。

これから先の全体のスキームは、研修だけで終わる話ではないので実際に支援をどのように調整していくか、アウトリーチも含めた体制を踏まえ、検証をやっていければと考えている。

議題2

令和7年度北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査について

(なお、調査の実施については、議会の予算承認後、正式な実施となる。)

■資料 3-3 調査項目一覧

資料 2-2-1 「令和7年度北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査」の実施(案)

- 「あなたは今の仕事をどのくらい続けていますか。」は、残しておいていただきたい。どれくらい続けて仕事ができているのかは、把握しておかないといけない。就職してしまえばいいわけではない。

また、資料 2-2-1 で調査人数の発達障害のある人 1,200 人というのは、発達障害単独なのか、それとも（身体・知的・精神障害のある人等）重複障害も含めた人数かがわからないので伺いたい。

(事務局)

1 点目、「あなたは今の仕事をどのくらい続けていますか。」を聞いたらどうだろうという意見については、その方向で検討したいと思う。

2 点目、重複障害が入っているのかに関して、この 1,200 人の内訳は、北九州市立小学校の特別支援学級の自閉症・情緒クラスの方が、令和4年度は約 1,100

人であった。それと、発達障害に関する団体の方への協力依頼を100人程度予定している。中には、重複している方もいるとは思いますが、発達障害のある方をメインとした人数を計上している。

■資料 3-2 調査項目一覧

- 11 項目「あなたは現在、幸せですか。」の質問は、漠然とした概念である。障害福祉サービスのニーズ調査であれば、具体的に「福祉サービスを使っていて、量質ともに満足されていますか。」というような項目であれば答えられると思う。
また、支援がないと答えられない方、支援があってもこの内容を理解するのは難しく、支援者が代わりに答える場合もあると思う。なので、その区別（本人、親、支援者か）は、はっきり分けた方が良く、誰が答えたのかという項目があればいいと思う。

（事務局）

「あなたは現在、幸せですか。」は、現行の障害者支援計画のスローガンで「生活を楽しみ、自分らしく生きるために」というところで、策定に当たって well-being の考え方を取り入れた。計画に初めてスローガンまで作っているが、そもそも、皆さんの今の生活の満足度を把握してなかった。

今は、案として項目を挙げているが、国や他都市の調査で、聞き方はいくつか事例があるので、参考にして、わかりやすく誤解のないように考えていきたいと思う。

「調査を誰が答えたのか」という項目については、答えた方を選択する項目を、令和2年度も令和4年度に引き続き、今調査でも入れている。

■資料 2-2 「令和7年度障害福祉サービス等ニーズ把握調査」の実施（案）

- インターネットでの調査も加えられたとのことだが、メールの返信ができることも視野に入れて欲しい。
この調査を代筆していただくには、かなり時間が掛かる。まだ意見を書きたいこと、言いたいことがあったけど、代筆者もそこまで（最後の設問の自由記入欄）は読まれなかった。そのため、質問項目だけでも先にわかっていると、答えやすい。希望者にはテキストデータの提供や、返信・回答できる等の配慮をお願いしたい。

■資料 3-1 調査項目一覧

- 3項目「あなたの性別はどちらですか。」は、文言を検討して欲しい。

(事務局)

令和4年度の調査では、「1.男性」「2.女性」「3.その他」を選択の項目していた。基本の選択肢としては、同様と思っているが、例えば、3つ目を括弧書きで自由記載にするなど、答え方については、事務局の方で検討して、調査票に落とした際にはまた委員の皆様から意見をいただきたいと思っている。

他都市の調査票のホームページ等で確認したが、ここは自治体で異なっているというのが現状である。

議題1と議題2を通して

■資料 1-45 (9) その他活動指標 発達障害者支援センターによる相談支援

- 発達障害者支援センターによる相談支援で「相談件数が2,710件と減少しました」とあるが、原因をわかる範囲で伺いたい。

(事務局)

障害福祉サービスが広がってきて、相談支援機関も増えてきたということが大きいと考えている。その中で、特に子どもに関わる場所では、放課後等デイサービスも増えてきており、その放課後等デイサービスの中で勉強会や取組がされているとも聞いており、(発達障害者支援センターへの相談件数が)減ったことへの影響は少なからずあるのではないかと捉えている。

また、継続して相談に来ていた方が、1回2回で相談が終了するケースも多くなったことも影響しているのではないかと捉えている。